

園芸タイムリー情報

《9月中・下旬版》

令和2年 9月16日発行 第9号
 上川農業改良普及センター
 Tel : 0166-84-2017 Fax : 0166-84-2009
 E-mail : asahi-nokai.11@pref.hokkaido.lg.jp
 HomePage : http://www.kamikawa.pref.hokkaido.lg.jp/ss/nkc/index.htm

全作物共通


- 天気は、中旬は曇りの日が多く、下旬は数日周期で変わり、平均気温は平年並か高く、降水量はほぼ平年並の見込みです。
- ①ハウスは日中の急激な昇温や夜温の低下に対応するため、換気やかん水などを適切に行い、生育環境の確保に努めましょう。
 - ②台風や暴風雨に備えて、事前にハウスやほ場の防災環境を整えるとともに、台風や暴風雨が通過後は、これらを点検し整備しましょう。
 - ③病害虫の発生には引き続き注意し、適切な防除対策を実施しましょう。湿度が高まると病害が発生しやすくなります。換気をこまめに行い、過湿状態の緩和を図りましょう。
 - ④余裕を持った作業計画を立て、健康状態を確認して作業を開始しましょう。

※本資料に記載の農薬や資材は「地域で推奨するもの」を使用し、倍率や収穫前日数に十分留意して使用してください。

作物名	あぶらな科野菜全般	
病害虫 生理障害名	コナガ成虫	
コナガ		
発生状況	少発生	
発生時期	5月下旬～	
発生の状況・要因		
<ul style="list-style-type: none"> ・幼虫が葉裏に潜み、葉を食害する。 ・9月以降、被害は徐々に減少している。 		
対策		
<ul style="list-style-type: none"> ・ほ場内外の雑草をこまめに除草する。 ・品目により薬剤の登録内容が違うので、ラベルを確認してから使用する。 ・ジアミド系（プレバソンフロアブル5等）の薬剤抵抗性個体群が出現している。防除効果が劣る場合は他系統の薬剤に切り替える。 		

作物名	あぶらな科野菜全般	
病害虫 生理障害名	ウスカワマイマイ	
ナメクジ類 カタツムリ類		
発生状況	中発生	
発生時期	5月上旬～	
発生の状況・要因		
<ul style="list-style-type: none"> ・9月上旬以降被害が増加しているため、今後は注意が必要。 ・ナメクジ・カタツムリは、ほ場周辺の雑草地、石の下、日陰など暗くて湿気が多い場所を好み、地中で越冬する。 ・葉の食害の他、フンや本体の混入が問題となっている。 ・雨天時や夜間は活発に活動する。 		
対策		
<ul style="list-style-type: none"> ・常発ほ場では通気を良くして湿気を逃がす。 ・スラゴを使用する場合は作物周辺あるいは株元の土壌表面に散布し、作物に付着しないように気をつける。 		
<防除の一例>		
●スラゴ 1～5g/m ² (3.3～16.5g/坪) 発生時		


作物名	パセリ
病害虫 生理障害名	
うどんこ病	
発生状況	少～中発生
発生時期	8月上旬～
発生の状況・要因	
<ul style="list-style-type: none"> ・8月上旬以降発生が増加している。 ・葉の表面が白色粉状のかびに覆われる。 ・ハウス内温度28℃前後で、乾燥した条件下で発生しやすい。 	
対策	
<ul style="list-style-type: none"> ・ほ場を乾燥させすぎない。 ・発生前から予防的に薬剤散布を実施する。 ・発病した葉は摘み取り、ほ場外に持ち出して処分する。 	
<防除の一例>	
(発生前)	
●クリーンカップ	1,000～2,000倍 収穫前日まで
●クムラス	500～1,000倍
(発生前～発生初期)	
●アフェットフロアブル	2,000倍 収穫3日前まで 2回以内


作物名	ミニトマト
病害虫 生理障害名	
斑点病	
発生状況	多発生
発生時期	8月中旬～
発生の状況・要因	
<ul style="list-style-type: none"> ・半促成長期どりの作型で多発している。 ・小さな褐色小斑点から始まり、融合して大きくなる。 ・湿度が高い気象条件で発生が多くなる。また、過去に発病が見られたほ場で発生しやすい。 	
対策	
<ul style="list-style-type: none"> ・発生ほ場は定期的防除を実施し（10日間隔）、次年度の発生抑制に努める。 	
<防除の一例>	
●ファンタジスタ顆粒水和剤	
2,000～3,000倍 収穫前日まで 3回以内	
●スクレアフロアブル（旭川青果連YES!cleanでは使用しない）	
2,000倍 収穫前日まで 3回以内	

作物名	トマト・中玉トマト・ミニトマト	
病虫害 生理障害名		
灰色かび病		
発生状況		
微発生		
発生時期		
8月下旬～		
発生の状況・要因		
<ul style="list-style-type: none"> ・茎葉での発生がやや目立ってきている。 ・20℃位のやや低温と多湿で多発し、特に多湿条件や植物体が濡れている状態が続くことが発生に影響する。 ・枯れた花卉、がく枯れ部、植え傷みや葉先枯れで傷んだ葉等の枯死部分などから侵入し発生しやすい。 		
対策		
<ul style="list-style-type: none"> ・換気を心がけ、必要に応じて下葉を摘除し通気性を確保する。 ・夜温が低く果実が冷えた状態で、ハウス内の温度が急激に上昇すると果実が結露し病害の発生を助長する。夕方早めにハウスを閉めて夜温を確保し、早朝から換気を行うことで結露を防止する。 ・夕方の薬剤防除や葉面散布は避け、晴天日の早朝に行う。 <p><防除の一例></p> <ul style="list-style-type: none"> ●フルピカフロアブル 2,000～3,000倍 収穫前日まで 4回以内 ●シグナムWDG 2,000倍 収穫前日まで 2回以内 		

作物名	トマト・中玉トマト・ミニトマト	
病虫害 生理障害名		
うどんこ病		
発生状況		
少発生		
発生時期		
8月上旬～		
発生の状況・要因		
<ul style="list-style-type: none"> ・一部ほ場で発生が見られた。 ・葉の表面にうどんこを振りかけたようにかびが密生している。 ・発生が増加すると果柄・へたなどにも発生する。 ・20～25℃の乾燥条件で発生しやすい。 		
対策		
<ul style="list-style-type: none"> ・ほ場を乾燥させすぎない。 ・初発が確認されたほ場は早めに薬剤散布を実施する。 ・被害葉や果実は摘除し、残さはほ場外へ搬出する。 <p><防除の一例></p> <ul style="list-style-type: none"> ●ハーモメイト水溶剤 800～1,000倍 収穫前日まで 回数制限無し ●アフェットフロアブル 2,000～4,000倍 収穫前日まで 3回以内 		

作物名	トマト・中玉トマト・ミニトマト	
病虫害 生理障害名		
トマトサビダニ		
発生状況		
少発生		
発生時期		
7月中旬～		
発生の状況・要因		
<ul style="list-style-type: none"> ・初めはハウス内の一部の株の下葉で発生し、徐々に上位の茎葉や隣接する株に広がる。 ・葉は先端から黄変し、やがて褐変し落葉する。茎はほこりを被って汚れたように褐変し、果実はくすんだようなさび症状となる。 ・高温乾燥時に発生が増加する。 		
対策		
<ul style="list-style-type: none"> ・被害の大きい株は抜き取り処分する。 ・発生を見逃さずに薬剤防除を実施する。 <p><防除の一例></p> <ul style="list-style-type: none"> ●コテツフロアブル 2,000倍 収穫前日まで 3回以内 ●コロマイト乳剤 1,500倍 収穫前日まで 2回以内 <p>※上記の剤は浸透移行性がないため、発生している株や周囲の株に葉裏等までまんべんなくかかるよう丁寧に散布する。</p>		

作物名	ピーマン・ししとう・なんばん	
病虫害 生理障害名		
ハダニ類		
発生状況		
少発生		
発生時期		
6月中旬～		
発生の状況・要因		
<ul style="list-style-type: none"> ・天敵を導入していないほ場での発生が見られている。 ・葉表の黄変と葉裏の褐変症状が見られ、加害部位には微少なダニが見られる。 ・密度が増加してくると細かな糸で巣を作り、薬剤が直接かかりづらくなるため防除が困難となる。 		
対策		
<ul style="list-style-type: none"> ・抵抗性が発達しやすいので各薬剤は年1回のみでの使用が望ましい。 <p><防除の一例></p> <ul style="list-style-type: none"> ●ダニトロンフロアブル 1,000倍 収穫前日まで 3回以内 ●スターマイトフロアブル 2,000倍 収穫前日まで 1回 ●コテツフロアブル 3品目共通 2,000倍 収穫前日まで 2回以内 ●粘着くん液剤 ししとう・なんばん 1,000倍 収穫前日まで 2回以内 		

作物名	ピーマン	
病虫害生理障害名		
菌核病		
発生状況		
少発生		
発生時期		
6月上旬～		
発生時の状況・要因		
<ul style="list-style-type: none"> 夜温の低下と共に再び発生が見られ始めているので今後の発生に注意する。 20℃以下の多湿条件で発生しやすい。 茎に発生した場合は、発生部位から上の茎葉が萎凋枯死する。 果実では褐変腐敗し、幼果では腐敗落果する。 		
対策		
<ul style="list-style-type: none"> 多湿が多発の原因となるので、ハウス内の換気に努め、茎葉が繁茂している場合は下葉を除去するなどして通気性を確保する。 茎葉の濡れは、夜間よりも日の出後の気温上昇に伴う結露によるので、夕方早めにハウスを閉めて夜温を確保し、早朝に換気を行う。 <p><防除の一例></p> <ul style="list-style-type: none"> ●ロプラール水和剤 1,000倍 収穫前日まで ●ロプラールくん煙剤 100g/300～400㎡ (床150～200㎡×高さ2m) 収穫前日まで <p>※使用回数は水和剤とくん煙剤と合わせて4回以内</p>		

作物名	花き類全般	
病虫害生理障害名		
灰色かび病		
発生状況		
中発生		
発生時期		
7月中旬～		
発生時の状況・要因		
<p><現在の発生状況></p> <ul style="list-style-type: none"> きくでは、わぎ芽を取り除いた跡や摘蕾跡から感染する。 スターチス類はがくのつけ根や採花後の切り口に発生する。今後、結露や降雨による高湿度条件により、発病が蔓延する可能性が高いので注意する。 		
対策		
<ul style="list-style-type: none"> ハウスの換気、通気性の改善 きくでは、ハウスの裾はできるだけ開放し、またシェードの裾も15cmほど開ける。 かん水間隔を空ける。 罹病部位の摘除と定期的な防除を行う（7日間隔）。 <p><防除の一例></p> <ul style="list-style-type: none"> ●ファンタジスタ顆粒水和剤 3,000倍 発病初期 5回以内 ●セイビアーフロアブル20 1,000倍 発病前～発病初期 4回以内 ●フルピカフロアブル 2,000～3,000倍 発病初期 5回以内 		

- ◆防虫ネット・粘着シートなどを活用し、適切な栽培管理と合わせ、病虫害の発生を最小限に抑制しましょう。
- ◆農薬の使用に当たっては、使用基準を必ず守りましょう。
なお、品目ごとの栽培防除体系を基に、化学合成農薬の使用をできるだけ減らし、クリーンな野菜生産を実践しましょう。

※この情報は、上川農業改良普及センター本所地域(旭川市、鷹栖町、当麻町、比布町、愛別町、上川町)向けに作成されています。
気象・土壌条件・作業体系から当地域以外には、適用されませんので十分ご注意ください。
※掲載されている農薬情報は、令和2年9月9日現在の登録内容となっていますので、活用の際は、あらかじめ安全使用基準を確認ください。
※不利益・損害などが発生した場合、当方は責任を負うことはできません。

■□■□■□■□ GAP手法の活用【農作業事故防止編】 □■□■□■□

ー農作業事故防止は日頃の安全確認からー

- 作業機を使用する前には、点検整備を完了し、作業中にトラブルが発生しないように努めましょう。
- 作業機の清掃、異物除去などを行う際は、機械を完全に停止し、安全を確認した上で行うとともに、遅れても焦らず作業しましょう。
- 地面がぬかるんだり滑りやすくなっているときは、走行速度を十分下げ、急ブレーキや急旋回を避けて作業を行いましょう。
- 作業はできるだけ2人以上で行うか、定期的に声かけや異常がないか確認し合いましょう。離れたほ場で作業をする場合は、あらかじめ、作業ほ場を家族等に知らせましょう。